

タイトル「**2022年度危機管理学部(公開)**」、フォルダ「**危機管理学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT2601		
科目名	危機管理基礎演習 I		
担当教員	宮脇 健		
対象学年	2年,3年,4年	開講学期	前期
曜日・時限	月 3		
講義室	1314	単位区分	必
授業形態	演習	単位数	1
科目大分類	専門		
科目中分類	専門基幹		
科目小分類	専門統合・演習		
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP1-E〔学識・専門技能〕専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。 DP4-F〔探究力・課題解決力〕問を設定し又は論点を特定し、それに対する答・結論・判断を合理的に導くために、論拠の収集と分析を体系的に行うとともに、オープンエンドな問題・課題に答えるための方略をデザインし、検証し実行することができる。 DP3-H〔論理的思考力・批判的思考力〕理路整然とした思考を備えつつ、偏りを排除するための内省をもって、問題・課題を合理的に解決することができる。 DP4-I〔理解力・分析力〕文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。 DP6-K〔表現力・対話力〕文章及び口頭で、自らの考えを的確に表現し、他者に過不足なく伝達することができる。 ■ C Rコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（C R）との関連 C1 倫理観と公共性（2%） E1 学識・専門技能（15%） F1 探求力と論拠（25%） F2 課題解決（25%） H1 論理的思考（5%） H2 批判的思考（5%） I1 理解・分析と読解（5%） I2 量的分析（5%） K1 ライティング・コミュニケーション（5%） K2 オーラル・コミュニケーション（5%） M1 総合的・応用的学修（3%）		
教員の実務経験			
成績ターゲット区分	■成績ターゲット 能力開発の目標ステージとの対応 2 進後期 ～ 3 開発期		
科目概要・キーワード	危機管理の研究領域の中から、学生個人がそれぞれ1つの研究テーマを構築するのに必要なスキルと知識を統合的に学ぶために、危機管理に関する基礎的な演習を行います。危機管理学の専門基幹科目における法学系科目、又は、専門展開科目における災害マネジメント、パブリックセキュリティ、グローバルセキュリティ若しくは情報セキュリティに属する危機管理系科目を担当する教員が「個別クラス」を担当し、教員の研究領域の特性に即して研究手法等を指導します。3年次以降のゼミナールにおける、より専門的な研究活動への橋渡しの意味をもちます。本科目では、研究のテーマ決定や研究計画の検討からはじめて、研究を進め、その成果を		

	プレゼンテーションによって表現することまでを行います。授業形態は(講義・演習)形式により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合があります。 ■キーワード 危機管理、研究テーマの構築、ゼミナールへの橋渡し	
授業の趣旨	■副題 危機管理に関する社会科学的アプローチについて学ぶこと、ゼミナールで必要なスキルを涵養します。 ■授業の目的 危機管理に関する研究テーマの探求、研究手法の会得、研究成果の発表の各過程を通じて、①探求力・課題解決力、②学識・専門技能、③論理的思考力・批判的思考力、④理解力・分析力、⑤表現力・対話力の各コンピテンスの開発を行うことを目的とする。将来のキャリアを見据えた学びにおいて、⑥自己の特性を理解し社会に貢献しようとする姿勢、⑦倫理観と公共心、⑧省察力の各観点について自覚を持つことを目的とします。 ■授業のポイント リスクを社会科学の方法論で分析した場合に何がわかるのかを学ぶことを目的としています。どのようなリスクを卒業論文の研究対象にするにしろ、分析する方法が適切でないと何を説明したいのか結局のところ相手に理解してもらえない場合があります。そのため、本演習では社会科学で使用される基礎的な方法を学ぶことで、研究対象となるリスクを分析	
総合到達目標	旺盛な関心をもって危機管理学及びそれを支える諸科学における重要問題を探求し、これを科学的な手法によって分析し、又は論理的に解釈して知見を見出すとともに、その成果を適切に表現することができる。 ■危機管理に関する研究の文献を読み精読できる。 ■文献に基づきレジュメを作成することができる。 ■レジュメに基づき他者に内容を説明することができる。 ■文献やグループワークを通じて、危機管理に関する様々な課題について説明できる。 ■文献やグループワークを通じ、他者と危機管理に関する問題について議論をすることができる。 ■ゼミナールや特殊研究などの専門研究を行うための作法を身に付けることができる。 ■自分の将来のキャリアとそのために行うべき学修の改善点について説明できる。	
成績評価方法	■レジュメによる報告1回(20%) 適応ルーブリック：E1・F1・F2、H1・H2、I1・I2、K2 (評価の観点) 課された本・論文を15分程度で報告してもらい、精読できるのか、また読んできた内容について自分なりに論点を挙げて問題提起しているのか、を評価します。 (フィードバックの方法) 授業の報告後に上記の評価に関する講評を行い、修正点を指摘します。また、学生からの意見も聞きます。 ■報告用レジュメ1回(20%) 適応ルーブリック：E1・F1・F2、H1・H2、I1・I2、K1 (評価の観点) 報告同様に、本・論文の論点が的確にまとめられているかどうか、定義や専門用語の説明や他の文献を引用しているのかどうか、など評価項目に従いチェックを行います。 (フィードバックの方法) 報告と同様に、講評を行い、修正点を指摘します。また、後日レジュメに赤字かコメントをつけて学生に返却します。 ■危機管理関連のワーク2回(20%) 適応ルーブリック：F1・F2、H1・H2、I1・I2、K2 (評価の観点) 危機管理に関するワークを行い、その中で、ワークシートを用いた作業をグループで出来ているのか、建設的なコメントが出されているのかどうか評価項目に基づきチェックを行います。 (フィードバックの方法) ワーク後に、報告をしてもらい、グループごとに、報告と報告内容の良かった点、悪かった点指摘をしてもらいます。また、教員からの講評も行います。 ■質問・議論の内容 毎回(20%) 適応ルーブリック：H1・H2、I1・I2、K2 (評価の観点) 輪読後に、報告に対して、議論と質問を他の学生からしてもらいます。その時の発言が本の論点や指摘を踏まえた内容かどうか、またその内容が批判的・論理的思考に基づいたものかどうかチェックを行います。 (フィードバックの方法) 質問、議論の内容が収束後、教員から質問と議論の意図や指摘に関してコメントを行うことでフィードバックを行います。 ■振り返りシート(20%) 適応ルーブリック：F1・F2、K1、M1 (評価の観点) 輪読の報告内容・報告に関する振り返りシートを記載してもらい(報告者またワークの際の報告)、自身の基礎演習での学修での課題・改善点について理解してもらいます。 (フィードバック方法) 報告後回収を行い、後日担当した学生、もしくはワークをしたグループにコメントを入れて返却を行います。	
履修条件	特にありません。	
履修上の注意点	特にありません。	
授業内容	回	内容
	1	①授業テーマ ガイダンス

	②授業内容 基礎演習で行う内容と成績評価についての説明を聞くことで、基礎演習で涵養するスキルが何か学生は説明できるようになる（C1、M1）。 ③予習（120分） 事前に提示した本を読んでくる。 ④復習（120分） 事前に提示された本の内容を読んでくる。
2	①授業テーマ 社会科学の方法論 1 ②授業内容 ゼミナールや特殊研究での個別の研究ををするために必要な社会科学の方法論についての講義を聞くことで、学生は社会科学の方法論に関する知識を獲得し、論理的な思考を用いて論文や資料を精読するための意義を説明することができるようになる（E1、F1・F2、H1・H2）。 ③予習（120分） 事前に提示した本を読んでくる。 ④復習（120分） 事前に提示された本の内容を読んでくる。
3	①授業テーマ 社会科学の方法論 2 ②授業内容 ゼミナールや特殊研究での個別の研究ををするために必要な社会科学の方法論についての講義を聞くことで、学生は社会科学の方法論に関する知識を獲得し（E1、H1）、論理的な思考を用いて論文や資料を精読するための意義を説明することができるようになる（F1・F2、H2）。 ③予習（120分） 事前に提示した本を読んでくる。 ④復習（120分） 事前に提示された本の内容を読んでくる。
4	①授業テーマ 輪読 1 ②授業内容 毎週1名が、指定された本、論文を読み、その内容の要約を行い、他の学生にその内容についてレジュメを作成し（K1）、説明をすることで（K2）、論文を精読する力（E1・H1・H2）、自分で内容を説明する力（H1・H2、K2）、そして、自分なりに論点が何かを理解する力を涵養することが出来るようになる（F1・F2）。報告のあたっていない他の学生も事前に読み、その内容について授業中に議論をすることで（H1・H2、I1・I2）、ゼミナールや特殊研究といった専門的な演習の授業で必要な、問題意識、探究心、論理的・批判的思考力、グループワークで必要なコミュニケーション能力を涵養することができるようになる（E1、F1・F2、K2）。 ③予習（120分） 事前に配布した本・論文を読んでくる。 ④復習（120分） 報告者は他の学生から受けた指摘から自身に足りないスキルが何かを振り返りシートに記載し、今後洗練させるべきスキルについて考える。報告者以外の学生は報告者の内容を受けて本や論文の内容を簡潔に800字程度でまとめる。
5	①授業テーマ 輪読 2 ②授業内容 毎週1名が、指定された本、論文を読み、その内容の要約を行い、他の学生にその内容についてレジュメを作成し（K1）、説明をすることで（K2）、論文を精読する力（E1・H1・H2）、自分で内容を説明する力（H1・H2、K2）、そして、自分なりに論点が何かを理解する力を涵養することが出来るようになる（F1・F2）。報告のあたっていない他の学生も事前に読み、その内容について授業中に議論をすることで（H1・H2、I1・I2）、ゼミナールや特殊研究といった専門的な演習の授業で必要な、問題意識、探究心、論理的・批判的思考力、グループワークで必要なコミュニケーション能力を涵養することができるようになる（E1、F1・F2、K2）。 ③予習（120分） 事前に配布した本・論文を読んでくる。 ④復習（120分） 報告者は他の学生から受けた指摘から自身に足りないスキルが何かを振り返りシートに記載し、今後洗練させるべきスキルについて考える。報告者以外の学生は報告者の内容を受けて本や論文の内容を簡潔に800字程度でまとめる。

6	①授業テーマ 輪読 3 ②授業内容 毎週1名が、指定された本、論文を読み、その内容の要約を行い、他の学生にその内容についてレジュメを作成し（K1）、説明をすることで（K2）、論文を精読する力（E1・H1・H2）、自分で内容を説明する力（H1・H2、K2）、そして、自分なりに論点があるかを理解する力を涵養することが出来るようになる（F1・F2）。報告のあたっていない他の学生も事前に読み、その内容について授業中に議論をすることで（H1・H2、I1・I2）、ゼミナールや特殊研究といった専門的な演習の授業で必要な、問題意識、探究心、論理的・批判的思考力、グループワークで必要なコミュニケーション能力を涵養することができるようになる（E1、F1・F2、K2）。 ③予習（120分） 事前に配布した本・論文を読んでくること。 ④復習（120分） 報告者は他の学生から受けた指摘から自身に足りないスキルが何かを振り返りシートに記載し、今後洗練させるべきスキルについて考える。報告者以外の学生は報告者の内容を受けて本や論文の内容を簡潔に800字程度でまとめる。
7	①授業テーマ 輪読 4 ②授業内容 毎週1名が、指定された本、論文を読み、その内容の要約を行い、他の学生にその内容についてレジュメを作成し（K1）、説明をすることで（K2）、論文を精読する力（E1・H1・H2）、自分で内容を説明する力（H1・H2、K2）、そして、自分なりに論点があるかを理解する力を涵養することが出来るようになる（F1・F2）。報告のあたっていない他の学生も事前に読み、その内容について授業中に議論をすることで（H1・H2、I1・I2）、ゼミナールや特殊研究といった専門的な演習の授業で必要な、問題意識、探究心、論理的・批判的思考力、グループワークで必要なコミュニケーション能力を涵養することができるようになる（E1、F1・F2、K2）。 ③予習（120分） 事前に配布した本・論文を読んでくること。 ④復習（120分） 報告者は他の学生から受けた指摘から自身に足りないスキルが何かを振り返りシートに記載し、今後洗練させるべきスキルについて考える。報告者以外の学生は報告者の内容を受けて本や論文の内容を簡潔に800字程度でまとめる。
8	①授業テーマ 輪読 5 ②授業内容 毎週1名が、指定された本、論文を読み、その内容の要約を行い、他の学生にその内容についてレジュメを作成し（K1）、説明をすることで（K2）、論文を精読する力（E1・H1・H2）、自分で内容を説明する力（H1・H2、K2）、そして、自分なりに論点があるかを理解する力を涵養することが出来るようになる（F1・F2）。報告のあたっていない他の学生も事前に読み、その内容について授業中に議論をすることで（H1・H2、I1・I2）、ゼミナールや特殊研究といった専門的な演習の授業で必要な、問題意識、探究心、論理的・批判的思考力、グループワークで必要なコミュニケーション能力を涵養することができるようになる（E1、F1・F2、K2）。 ③予習（120分） 事前に配布した本・論文を読んでくる。 ④復習（120分） 報告者は他の学生から受けた指摘から自身に足りないスキルが何かを振り返りシートに記載し、今後洗練させるべきスキルについて考える。報告者以外の学生は報告者の内容を受けて本や論文の内容を簡潔に800字程度でまとめる。
9	①授業テーマ 危機管理に関するグループワーク1 ②授業内容 ゼミナールや特殊研究のグループワークに参加できるように、今まで読んできた本や論文の問題点について、KJ法や2次元展開法を用いてグループで議論し考えをまとめ、報告を行うことで、問題解決能力や分析・考察力を養うことができる（F1・F2、H1・H2、I1・I2、K2）。 ③予習（120分） グループワーク用に指定された本・論文を読んでくる。 ④復習（120分） グループワークで指摘された内容を振り返りシートに記載する。

10	①授業テーマ 輪読 6 ②授業内容 毎週1名が、指定された本、論文を読み、その内容の要約を行い、他の学生にその内容についてレジュメを作成し (K1)、説明をすることで (K2)、論文を精読する力 (E1・H1・H2)、自分で内容を説明する力 (H1・H2、K2)、そして、自分なりに論点が何かを理解する力を涵養することが出来るようになる (F1・F2)。報告のあたっていない他の学生も事前に読み、その内容について授業中に議論をすることで (H1・H2、I1・I2)、ゼミナールや特殊研究といった専門的な演習の授業で必要な、問題意識、探求心、論理的・批判的思考力、グループワークで必要なコミュニケーション能力を涵養することができるようになる (E1、F1・F2、K2)。 ③予習 (120分) 事前に配布した本・論文を読んでくる。 ④復習 (120分) 報告者は他の学生から受けた指摘から自身に足りないスキルが何かを振り返りシートに記載し、今後洗練させるべきスキルについて考える。報告者以外の学生は報告者の内容を受けて本や論文の内容を簡潔に800字程度でまとめる。
11	①授業テーマ 輪読 7 ②授業内容 毎週1名が、指定された本、論文を読み、その内容の要約を行い、他の学生にその内容についてレジュメを作成し (K1)、説明をすることで (K2)、論文を精読する力 (E1・H1・H2)、自分で内容を説明する力 (H1・H2、K2)、そして、自分なりに論点が何かを理解する力を涵養することが出来るようになる (F1・F2)。報告のあたっていない他の学生も事前に読み、その内容について授業中に議論をすることで (H1・H2、I1・I2)、ゼミナールや特殊研究といった専門的な演習の授業で必要な、問題意識、探求心、論理的・批判的思考力、グループワークで必要なコミュニケーション能力を涵養することができるようになる (E1、F1・F2、K2)。 ③予習 (120分) 事前に配布した本・論文を読んでくる。 ④復習 (120分) 報告者は他の学生から受けた指摘から自身に足りないスキルが何かを振り返りシートに記載し、今後洗練させるべきスキルについて考える。報告者以外の学生は報告者の内容を受けて本や論文の内容を簡潔に800字程度でまとめる。
12	①授業テーマ 輪読 8 ②授業内容 毎週1名が、指定された本、論文を読み、その内容の要約を行い、他の学生にその内容についてレジュメを作成し (K1)、説明をすることで (K2)、論文を精読する力 (E1・H1・H2)、自分で内容を説明する力 (H1・H2、K2)、そして、自分なりに論点が何かを理解する力を涵養することが出来るようになる (F1・F2)。報告のあたっていない他の学生も事前に読み、その内容について授業中に議論をすることで (H1・H2、I1・I2)、ゼミナールや特殊研究といった専門的な演習の授業で必要な、問題意識、探求心、論理的・批判的思考力、グループワークで必要なコミュニケーション能力を涵養することができるようになる (E1、F1・F2、K2)。 ③予習 (120分) 事前に配布した本・論文を読んでくる。 ④復習 (120分) 報告者は他の学生から受けた指摘から自身に足りないスキルが何かを振り返りシートに記載し、今後洗練させるべきスキルについて考える。報告者以外の学生は報告者の内容を受けて本や論文の内容を簡潔に800字程度でまとめる。
13	①授業テーマ 輪読 9 ②授業内容 毎週1名が、指定された本、論文を読み、その内容の要約を行い、他の学生にその内容についてレジュメを作成し (K1)、説明をすることで (K2)、論文を精読する力 (E1・H1・H2)、自分で内容を説明する力 (H1・H2、K2)、そして、自分なりに論点が何かを理解する力を涵養することが出来るようになる (F1・F2)。報告のあたっていない他の学生も事前に読み、その内容について授業中に議論をすることで (H1・H2、I1・I2)、ゼミナールや特殊研究といった専門的な演習の授業で必要な、問題意識、探求心、論理的・批判的思考力、グループワークで必要なコミュニケーション能力を涵養することができるようになる (E1、F1・F2、K2)。 ③予習 (120分)

		事前に配布した本・論文を読んてくる。 ④復習（120分） 報告者は他の学生から受けた指摘から自身に足りないスキルが何かを振り返りシートに記載し、今後洗練させるべきスキルについて考える。報告者以外の学生は報告者の内容を受けて本や論文の内容を簡潔に800字程度でまとめる。
	14	①授業テーマ 危機管理に関するグループワーク2 ②授業内容 ゼミナールや特殊研究のグループワークに参加できるように、今まで読んできた本や論文の問題点について、KJ法や2次元展開法を用いてグループで議論し考えをまとめ、報告を行うことで、問題解決能力や分析・考察力を養うことができる（F1・F2、H1・H2、I1・I2、K2）。 ③予習（120分） グループワーク用に指定された本・論文を読んてくる。 ④復習（120分） グループワークで指摘された内容を振り返りシートに記載する。
	15	①授業テーマ 基礎演習のまとめ ②授業内容 今まで読んできた本・論文の論点をまとめて、議論を行い、今まで読んできた内容について理解しているのか再度確認を行うことで、自分の言葉で本の内容を説明できるようになる（C1、K2）。 ③予習（120分） 自分の担当した回の本・論文と振り返りシートを読んてくる。 ④復習（120分） 指摘や議論を踏まえて、ゼミナールや特殊研究に向けた自分の課題を書いてみる。
関連科目	①演習系科目としては、「自主創造の基礎1・2」（RMGT1215・1216）、「危機管理基礎演習Ⅱ」（RMGT2602）、「ゼミナールⅠ～Ⅳ」（RMGT4601・4602・4603・4604）、「危機管理特殊研究1～4」（RMGT4611・4612・4613・4614）と関連する。とくに、「ゼミナールⅠ～Ⅳ」への橋渡しの意味をもつ。②講義科目については、個別クラスで扱うテーマによる。	
教科書	1回目の授業で指示をします。また輪読用の本や論文は毎回配布する予定です。	
参考書・参考URL	1回目の授業で説明します。	
連絡先・オフィスアワー	■連絡先 開講時に告知します。 ■オフィスアワー 金曜日3限	
研究比率	■危機管理領域との対応 災害マネジメント領域：25%、パブリックセキュリティ領域：25%、グローバルセキュリティ領域：25%、情報セキュリティ領域：25% ■危機管理学と法学のバランス 危機管理学：80%、法学：20%	

